ISSN 1349－1911

賀茂文化

第8号

平成23年4月

賀茂文化研究会

世界に通じる日本神道のこころ

―オランダ王国・日蘭親善斎宮ポウル宮司の場合―

賀茂文化研究会　　勝矢淳雄・青木豊明・小松　明

1．はじめに

平成22年9月18日から23日までの6日間、オランダの日蘭親善斎宮を3名で訪問した。今回の調査目的は、従来の上賀茂と下鴨を中心にした賀茂文化研究から全国の賀茂地域に研究対象を広げ出したが、さらに一歩踏み出し日本で培われた神道のこころを通してオランダで活躍する日蘭親善斎宮を訪問し、新たな活動の基盤を築く知見を得ることを目的としている。

日本の古神道に属する山蔭神道で修行されたオランダ人のポウル氏が宮司を務められている日蘭親善斎宮の祭祀が、日本の神社神道とどのような違いを持っているのかということも調査し、ヨーロッパ北西部に位置するオランダに根付き広めていくために独自の祭祀方法があるのかを見極めることなども目的とした。

2．調査課題

オランダの首都アムステルダムに、昭和56年(1981)から30年間にわたり神道活動をしておられるオランダ人が宮司を勤める日蘭親善斎宮がある。日本人が移民した国には、日本人が宮司を勤める神社は数多くあり珍しくない。そのような基盤がまったくない外国で、しかも外国人がはじめた神社が活動しているのは大変珍しく、現在のところオランダのこの神社のみ確認できている。アメリカに椿大神社とフランスに和光神社があるが、日本人が関与したり、形式的であっても宮司は日本人が勤めるなど形態が異なる。宗教基盤の違う国で、どの様な形で地域に受け入れられているのか、どの様に活動を広めているのかなどは、日本においても新しい地域で活動をはじめるのに大いに参考になることである。

具体的な調査課題は、以下のようである。

①キリスト教主体のオランダに神社を定着させるまでには、多くの困難な問題があったと思われるが、どんな問題があり、それをどの様にポウル宮司が解決してこられたのかを、具体的に聞き取り調査すること。さらに今後、どの様に日本の神道を展開されようとお考えなのかを聞くと共に、その方法について調査すること。地域への活動の浸透プロセスを知るために興味のあるところである。

②日蘭親善斎宮の基盤となる山蔭神道は日本の古神道に属し、その祭祀がどこまでがオランダの国状に合わせた独自のものかを知ること。日本で行なわれている神社の祭祀をそのまま行なっているのか、オランダ人が受け入れやすい形態にしているのかを知ること。

③オランダの神社が、日本では伊勢神宮に天皇の名代として奉仕した未婚の皇女あるいは

その居所を意味している「斎宮」となぜ名乗っているのか。そして、個人の修行を現在も重視している日本の古神道に属する考え方が、何故ヨーロッパに根付いたのかを知ること。
④日本の神社と水は深い関係にあり、必ず水で清める作法、お祓いが取り入れられている。禊ぎや御手洗や水垢離などに代表され、清浄でなければ神の加護を得ることが出来ないと考えている。オランダの日蘭親善斎宮が、水についてどの様な意識と実態で祭祀を執り行っているのか、及びそれがオランダの水事情やオランダの水利用状況などとかかわりがあるのか。
⑤日蘭親善斎宮が地域の中でどの様に受け入れられているのか、どの様な人たちがどの様なことに惹かれて信者になり、あるいは参拝に神社を訪れているのか。オランダに日本の神社を受け入れる素地があるのか、それが一般的なことなのか、あるいは特異な状況なのか。

3．日蘭親善斎宮とポウル宮司

日蘭親善斎宮とは、日本の山蔭神道で修行し、宮司の資格を得たポウル宮司（Paul de Leeuw）がオランダの首都アムテルダムで開いた日本の神道精神に則った神社である。山蔭神道自体が日本では特殊な神道であり、神社本庁のいわゆる神社神道には属しておらず、神道系宗教団体の教派神道でもなく、古神道の内の古伝継承派に分類されている神道である。自然崇拝を儒教・陰陽道・易学などの古代中国の哲理で論理化したものといわれている。それぞれの人の主体的な精神的修養を大切にし、神社神道にない「行法」を伝えている。自身の体験を通じて体得したものの中に、神道の真髄があることを説いている。

現在、愛知県額田郡幸田町荻に本宮である「貴嶺宮（きれいぐう）」をおき、第 81 世の山蔭仁嘉氏が管長を勤めている。ポウル宮司が日本で修行した山蔭神道の当時の管長であった山蔭基央（やまかげもとひさ）氏は第 79 世で、昭和 24 年（1949）に明治天皇の外戚家である中山忠徳氏の猶子（ゆうし）（養子）となり、宮中に伝わってきた山蔭神道宗家を相続した。昭和 41 年（1966）に宗教法人山蔭神道を設立して、管長となった。国内の信者数 1 万人強、国外 20 人程度である。

ポウル宮司は、昭和 22 年（1947）オランダのロッテルダムに生まれ、オランダで最も伝統のあるライデン大学で現代文学と演劇を専攻された。昭和 52 年（1977）にフランス文化庁主催のパリで開催された、日本の伝統文化や芸能に学ぶ「人間性回復道場」のワークショップに参加し、そこで日本文化の基礎である神道の授業を受けたのが神道に関心持つきっかけとなる。特に授業の前に道場を雑巾で清掃し、学ぶ場を清めることで自分のこころも綺麗にするという考え方に特に惹かれる。日本の本場で神道の勉強がしたいというポウル氏の願いに、ワ

写真１．山蔭神道宮司の免許状

ークショップの先生が山蔭神道の山蔭基央氏を紹介し、昭和 54 年（1979）1 月に当時静岡県の浜名湖畔にあった貴嶺宮での修行のために来日された。何度か来日して修行を繰り返され、昭和 56 年（1981）3 月に宮司としての資格を取得された。帰国して、アムステルダムに神道行法の道場を開かれ、これが現在の日蘭親善斎宮となっている。

4．日蘭親善斎宮での神道エクササイズ

通常の現地のオランダ人を対象にした「神道エクササイズ」に実技参加させて頂いた。参加にあたっては、ポウル宮司より、事前に運動が出来る服装・衣服を準備してくるようにという案内を受けていた。エクササイズが、どのようなものであったのかを順を追って報告する。

4－1．エクササイズ（行法）

次第

①禊（手水）／**写真 2.3**
②着座・瞑目静思
③二礼・二拍手・一礼
④振魂（あるいは、ふるたま）
行法と天の鳥船／**写真 4**

写真２．禊（手水）１

写真３．禊（手水）２

写真４．振魂

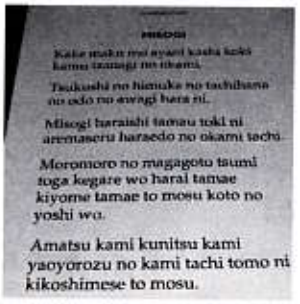

写真５．禊祓詞

写真６．自霊拝

⑤神仙道作法『印を結んで息吹行法』
⑥禊祓詞（言霊）／**写真 5**
⑦大神呪『アヂマリカム』
⑧調息（呼吸法）
⑨五大母音『ア・オ・ウ・エ・イ』長唱
⑩五天合掌『五指で印を結び顔面で合掌祈念する』
⑪鎮魂『天の数詩ヒ・フ・ミ・・・』
⑫自霊拝（御鏡御拝）／**写真 6**
⑬鎮魂『太陽に見立てた黒点を凝視』／**写真 7**
⑭調息／**写真 8**
⑮五天合掌／**写真 9**
⑯相互拝・祈り詞『感謝の言葉』／**写真 10**

写真７．黒点凝視

写真８．調息

写真９．五天合掌

写真 10．相互拝

⑰瞑目静思

⑱二礼・二拍手・一礼

４－２．エクササイズ（行法）補説

①禊ぎ（手水）／**写真 3**

斎宮の道場に入場する前に手水を行う。

②・⑰着座・瞑目静思

座布団の上に着座して全体として円座を作り、それぞれ瞑目して静思する。

③・⑱二礼・二拍手・一礼

姿勢を整えて背筋を伸ばし、ゆっくりした動作で２回お辞儀し、２回拍手を打ち、最後にもう一度お辞儀をする。

④振魂行法と天の鳥船／**写真 4**

宇宙の波動に共振する意味合いを持って、自らの身体を上下に振り動かしながら振魂の幸いのエネルギーを戴く。さらに小さな小船で夜の大海を渡り切るという意気込みで櫓を漕ぎ出しながら、身体を上下に振動させていく。

⑤神仙道作法『印を結んで息吹行法』

手印（ポウル宮司はこのことをサンスクリット語のムードラ（Mudra）と呼ぶ）を結び、エネルギーを集結させて強い力を内から湧き出させる。具体的には、胡坐の姿勢を取り、両手指を組み、人差し指を伸ばして合わせる。それを胸の前に立てるようにし、肘を開く。そのまま両腕に力を加えていき、軽い振動を与える。

⑥禊祓詞（言霊）／**写真 5**

ローマ字で書かれた禊ぎ文を、力を込めて腹の底から発声する。自分の声を聞きながら、無念無想を目差して奏上する。邪気を祓う神秘な力があるといわれる。

⑦大神呪『アヂマリカム』

山蔭神道の神秘力を持つ神伝の神呪。この言葉は古伝であって、意味は不明だということ。自霊の活性化を祈念する時などあらゆる時にこの言葉を唱えて、神通力を得るとされている言霊。

⑧・⑭調息（呼吸法・息吹長世法）／**写真 8**

まず息を吐く。ゆっくりと細く長くしっかりと吐く。そして吐き切った後、今度はゆっくりと細く長く吸う。そうして精神を清く鎮める。息が長くなれば健康で長生きもで

きるという教え。

⑨五大母音『ア・オ・ウ・エ・イ』長唱

アオウエイを一息で、できるだけ長く引き伸ばしながら腹の底から唱えて、一念に集中することで、心の統一を図る。

⑩・⑮五天合掌／**写真 9**『五指で印を結び顔面で合掌祈念する』

両手の五指の先のみを触れ合わせて印を結び、顔の前にかざして合掌祈念する山蔭神道の秘伝とされる行法。安座（胡坐）で両手を脇から大きく弧を描くように掲げていく。

さらに両手を天に伸ばし、天空からのエネルギーを掴み取るようにして、自分の身体の中に導くようにする。

⑪鎮魂『天の数詩：ヒ・フ・ミ・・・』

「一（ヒ）、二（フ）、三（ミ）、四（ヨ）、五（イ）、六（ム）、七（ナ）、八（ヤ）、九（ココノ）、十（タリ）、百（モモ）、千（チ）、万（ヨロズ）」と唱えて、無念無想の境地に達するように心を統一する。

⑫自霊拝（御鏡御拝）／**写真 6**

鏡の中の自己の姿に礼拝する。個々に鏡の前に座って、静かに自分の姿に向かって感謝の言葉を捧げ、拝する。内に秘めたる自分を、客観的に改めて見つめ直す。鏡に自分自身を映し、神（カミ）の中に我（ガ）を入れるという天皇家でも行われていたという自分自身の心的変革に用いる行法。

⑬鎮魂『光輝幻想訓練：太陽に見立てた黒点を凝視』／**写真 7**

心の内面に潜行する精神統一の一手段。黒丸に精神集中すると、黒丸は輝く太陽になる。まずその太陽は瞼（まぶた）の裏に入り、そして身体に入って太陽と心が一体となる。さらにその太陽が身体の中で爆発することによって、自分自身が光り輝くようになる。高い意識を持った次元へ自分自身を導く訓練。

⑯相互拝・祈り詞『感謝の言葉』／**写真 10**

行者同士でお互いに挨拶して、お互いの心の調和を保てるようにする。そして宇宙や自然や社会と自分自身が結び付いていることへ、その時心に湧いてくる言葉でもって感謝を表現する。エクササイズにより神との一体感から得た心の内観を、その英知を持って現実社会にどのように影響させて行こうかと考えることで、この日の成就目標とする。

5．神道エクササイズ参加者への聞き取り調査

今回の神道エクササイズに参加された 10 名（日本からの 3 名も含む）で、ディスカッションの時間をポウル宮司の配慮で持つことができた。企業秘書の女性、劇作家の女性、主婦、元銀行員の男性などであった（ポウル宮司など 3 名は**写真 11** には写っていない）。

一番遠くから来られていたのは、オランダの

写真 11．エクササイズの参加者

中西部のユトレヒトから 1 時間 30 分くらいかけて来られていた元銀行員の方だった。

この方は、我々が日蘭親善斎宮の場所を探している時に偶然にも道を尋ねた方だった。この方が斎宮道場まで案内して下さった。「我々が出会ったのは偶然ではなく必然だった。」と言われたのが印象的であった。エクササイズが開催される時は、いつも参加されているということだった。参加者全員から今回の参加目的を聞いた。全員の方々が、異口同音に言われたことは、「自分を見つめる時間を持つことによって、今現在の自分を見つめ直せるし、今日の自分と向き合える。ベースが一人ひとり違っているからこそ、同じことをしても感じ方が一人ひとり違う。そのことを知ることが自分を高めることにもつながる。」という内容だった。

写真 12. 道案内をしてくれた参加者（元銀行員）と斎宮入口。マンション群が立ち並ぶ大きな落ち着いた団地の中にあり、景観が厳しく規制されているようで、小さな注連縄が架けられているだけであった。

全員がクリスチャン（カトリックかプロテスタント）だった。しかしキリスト教に対して何らかの疑問もしくは物足りなさを感じておられ、そのことが内面的な成長を促す神道エクササイズに興味を持たれたようだ。強制ではなく、また宗教心でもなく、自らの意思で自ら感じ自らの精神面を鍛え直すという、自然崇拝的な神道精神に哲学を感じておられるようだった。今という時間がこの瞬間しか存在しないので、そのことを大切にして、違う自分を発見するために何度も神道エクササイズに参加されているということだった。

後ほど分かったことであるが、この参加者への聞き取り調査内容こそが、ポウル宮司の神道の意図されていることであった。

6．ポウル宮司への聞き取り調査

事前に送付しておいた質問表に沿って質問した。ポウル宮司と日蘭親善協会副会長のマドレーヌ・ワルデナール（Madeleine Wardenaar）女史に、我々3 人の質問者と通訳の藤木きよ氏とで聞き取り調査を実施した。

6－1．ポウル宮司さん自身への質問

1）なぜ日本の神道を習得したいと思われたのですか。

ライデン大学でオランダ語とドラマを学んだ。街角でドラマをする劇団を作った。自分の身体を使って表現することから始めました。能や歌舞伎、そしてフランス映画の「天井桟敷の人々」に影響を受けました。昭和 52 年（1977）にフランスのパリで開催された神道ワークショップに参加して神道・武道・仏教・合気道に触れました。ワークショップの道場では、まず水で雑巾がけの床磨きをすることから始めました。「清め・禊ぎ・祓い」を教わりました。初めて英語で書かれた神道の本であるジャン・エルベールの「ＳＨＩＮＴ

O－The Fountainhead of Japan－（神道－日本の源泉－）」（**写真 13**）を読んで勉強しました。ワークショップの先生に紹介して戴いた山蔭神道の山蔭基央（やまかげもとひさ）先生に日本へ来ても良いという許可を貰い、昭和 54 年（1979）に日本に修行に行きました。俳優として内面的な自己確立を目差し、精神を浄化することに魅力を感じて神道を習得したいと考えました。修行の結果、心の窓が開かれたような感じを受けました（**写真 14**）。

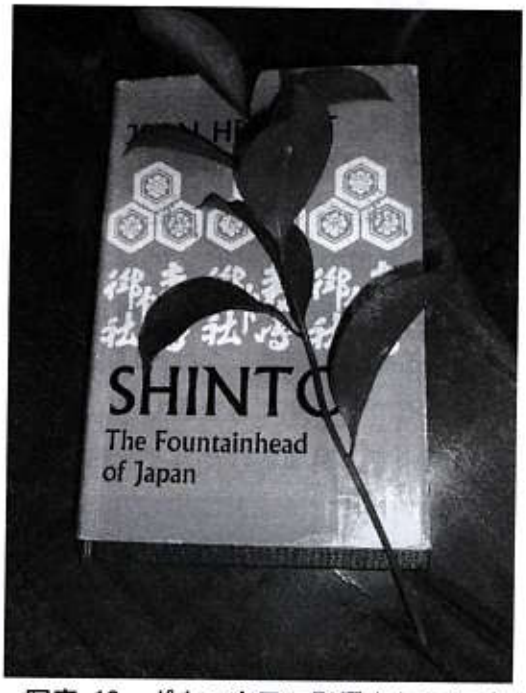

写真 13. ポウル宮司に影響を与えたジャン・エルベールの著書とオランダ榊のルスカス

2）エクササイズの中で鏡を置いてやる行法はどのような意味があるのですか。

演劇の中に神道を取り入れたかったのですが、神道があまりに大きすぎたために、結局演劇を辞めて、神道だけになりました。日本に永住したかったのですが、山蔭先生にオランダに帰ってオランダの地で神道を広めなさいと勧められました。神道は日本が発祥ですが、ここではオランダにある神道になっています。オランダに帰って来て、オランダ神道を作ったのではなく、元々キリスト教が始まる前にあった人間の自然に対する自然信仰のようなものを再生させました。甦（よみがえ）られるというような心の働きを、鏡の中の自分から見つけ出すのに用いています。

3）自然崇拝のアニミズムのようなものがオランダにもあったのですか。

自然崇拝の文化を持っていたケルト民族は今は住んでいませんが、ずうっと昔オランダにも住んでいました。しかし私は、ケルト民族が住んでいた時代からの精神的なものを、神道を通して再生することをしているのではないかと思っています。クリスマスツリーのボールは勾玉（まがたま）ではないかと思ったり、ツリーそのものは「神籬（ひもろぎ）」（神を招請するための立てた榊（さかき））ではないかと思っています。キリスト教も初めは浄い精神から始まったが、富を得る人やルールが創られたりした頃から、精神面では変わってきたと思います。

写真 14. 修行中のポウル宮司（ポウル著「我は鏡なり」より）

4）ヨーロッパで伝えたい神道の心とはどのようなものですか。

ヨーロッパでは、教会にいっさい行かない人も多くなってきました。無宗教になってきたのではないかと思います。仏教は密教的な要素を持ち、独特の宇宙観を持つユダヤ教の「カバラ」は、唱導師たちによって説き導かれてきました。私は、神などの超越的存在を

直観や瞑想により認識しようとする神道の所謂「神秘主義」を、カバラやインドのヨガなどと同じように唱導しようと考えているのではありません。この質問は、次の５）と６）番目の質問と関連しているので、続けて話しをします。

５）現在ご自身ではどの程度、オランダに神道の心が浸透したと感じておられますか。

６）神道を啓蒙するに当って、どのような取り組みをされていますか。

私は、神道のプロパガンダ（伝道）をするわけではありません。神道は非常にピュア（純粋）なものであって、人に強制して入信させるものではありません。伝道を行なうと、すでにあるものを破壊しなければなりません。私はオランダで、伝道ではない神道的なものを伝えるエクササイズを通して、参加された方々にその心を伝えています。私自身がまず心を開いて、参加された方々を招待しています。

７）オランダでは、どの位の人々が日本の神道に関心を持っていると思われますか。

日本の神道に興味を持ってもらうためには、まずこのエクササイズを受けて頂くのが一番だと考えています。この斎宮に来て、エクササイズを受けて、そのことを周りの人たちに話しをして、エクササイズを受けたその人物が変わったことを知って、次第に多くの方々に浸透していくと考えています。もちろん参加していない方々にも、神道に感心を持ってもらうことは可能だと思いますが、やはり参加してもらうことによって、より確実に出来ることだと思います。

８）ライデン大学で演劇を学ばれたことが、何か宮司をされている上で役立っていることはありますか。

大学で学んだオランダ文学は、言葉の規則（言葉の使い方やテクニック、文法的に明確な説明など）に役立っています。また演劇は、儀式の説明や進行に役立っています。

９）現在日本とは、どのような接点をお持ちですか。

日本には友人がたくさんいて、連絡を取り合っていますが、すべて神道関係者です。

10）ポウルさん自身がお書きになった書物はありますか。

解説本というものはありませんが、記事の原稿はたくさん書いています。

Publications List（出版物リスト）

①With a bullet train through Shinto、1979

②Ware wa kagami nari、1980 「我は鏡なり I am a Mirror」この著作を１冊戴く。

③Shinto,een bron van inspiratie、1991

④Tussen leven en dood in Japan、1994

⑤De paradox van het profane religieuze besef、2000

⑥The celebration of 400 years Japanese Dutch Friendship、1999

「大阪府神社庁五十周年記念論集」

⑦Nature and Japanese Tradition、2004

⑧The Essence of Shinto、2006

11) 日本の伝統文化や芸能の中で、特に好きなものは何ですか。

「神道」が一番。神道は、清らかな心を感じます。神道の心は、身体の中の風景に生きています。水の中、砂漠の中、あらゆる場所にあります。その心はいつもピュア（純粋）で、温かいものであるというのが神道の概念です。神道の概念は、オランダの文化とはかなり離れています。全く性質が違うと言っても良いでしょう。例えるなら、オランダの神道は「水」に囲まれていますが、日本の神道は「山」に囲まれています。そのオランダと日本の架け橋になることにおいて、私の学んだ語学や演劇が役立っています。来日前は日本人の心とオランダ人の心は違うものだと思っていましたが、山蔭神道で学んだことによって、心は何人であっても同じだということに気付かされました。オランダへ帰ってきて、外見的な見た目は違っていても、内面的には同じ心を持っているということをつくづく感じました。

12) ポウルさん自身は、元々はキリスト教信者だったのですか。

写真 15. 質問に答えているポウル宮司

元々はカトリックでした。良いカトリックの家庭に育ちました。18 歳の時に、キリスト教の真髄がわからなくなりました。生まれてきたものは、原罪を持って生まれてきているという概念が理解できなかったのです。元々悪く生まれてきたのではなく、良いものを持って生まれてきたと信じたかったのです。色んな神父や学校でその質問をしましたが、誰も納得のいく答えを教えてくれませんでした。それでカトリックを離れました。そうして、神道に出会うまで、どの教会にも一度も行きませんでした。

13) もし将来死んだら、お墓はどうされますか。

これは大問題です。オランダには神道式のお墓はないと思います。オランダでは、日本を考える時に、神道は生活で生きていく時に、仏教は死んだ時にと思われています。しかし私は、そうは思いません。山蔭神道には、浄焔祭という火の祭りがあって、祖先の浄霊や戦争などで亡くなられた方々などの魂を鎮めるお祭りをしています。死者の霊が赴く神聖な場所（霊山など）に暫くは留まり、子孫を見守り、その供養を受けますが、充分浄化されますと、神聖な場所に集合して祖霊となり、さらに高い神霊の世界に行くと考えています。祖先の霊は、子孫を守護して現実世界と重なり合う見えない世界におり、生きている人々と親しく結び付きをもって生き続けているというのが神道の考え方です。

14) ポウルさん自身は仏教をどのように考えておられますか。

オランダではキリスト教を離れて、仏教に傾斜している人が増えています。それは仏教に関する本がたくさん出版されているからです。神道の本は、ほとんどありません。キリスト教もユダヤ教の本もたくさんあります。キリスト教はバイブルがあります。仏教には

仏典があります。

しかし神道には、固定された規則やルールというようなものはありません。人によっては、リーダーがいたり、バイブルがあったりして、どうすれば良いのかという指示が必要な人がいます。神道は非常に自由であるが、自由であるからと言って、煩雑でカオス（混沌）であるかというとそうではありません。私は、この微妙な違いがある自由さに神道の良さを見出しています。何か事が起こった時に、仏教徒は仏典があるからと言って仏典に沿って処理するかと言うとそうではないですし、キリスト教徒もバイブルに沿って処理をするかと言うとそうではありません。私は、神道が仏教やキリスト教より良いといったことを言いたいのではありません。人々がルールに沿って生きることは必要だし、システムに従って生きることも必要だと思います。しかし、神道には固定されたものがありません。よって言ってみれば、神道は経典やテキストがない分、一番難しい宗教だと言えます。取った行動が、自分自身に対して責任が帰ってくることになりますし、まわりの人に対しても責任が生じることになります。一番難しいのです。

６－２．山蔭神道と日蘭親善斎宮についての質問

15）山蔭神道の崇敬者（信者）は、ヨーロッパにおよそどの位おられますか。

現在までに、神道エクササイズを30年間で、8,000人くらいの方々が受けられたのではないでしょうか（八百万の神々ですからと冗談を言われた）。このアムステルダムの斎宮だけではなく、全国色んな所でレクチャー（講義）もしています。明日もオランダ第２の都市であるロッテルダムで、エクササイズを行ないます。ＥＵの単一通貨導入を決めたことで有名なオランダ南部のマーストリヒトから、この斎宮に通っている人もいます。年に４回大きなセレモニー（初年祭初詣・節分祭春まつり・夏越の祓い夏まつり・新嘗祭秋まつり）も開いています。これらをすべて含めると、やはり8,000人くらいの人たちが神道に触れたことになります。またこの他、結婚式や七五三や地鎮祭、竣工祭も行っています。

16）どのようにそれらの広報活動をされているのでしょうか。

ヨーロッパで日本の神道は珍しいので、色んなマスコミが取上げてくれます。特に新聞社が、セレモニーごとに取材に来てくれるので、大いに広報に役立っています。オランダでは「テレグラフ」、「ＮＲＣ経済新聞」、「パウロアムステルダム新聞」などです。テレビ局も取材に来たりしています。過去には日本のＮＨＫの「しゃべらナイト」という番組にも出演しましたし、「日本経済新聞」も取材に来たことがあります。

17）山蔭神道の宮司になる為には、どのような資格がいるのでしょうか。

日本の山蔭神道で行を受けました。最初は半年間基本的な神道を貴嶺宮で学びました。次に３ヶ月間、そして最後に１ヶ月間、日本に行って学びました。すべての修行が終わった時に、宮司の装束を頂きました。その後は、何度も日本に行って修行をしています。

18）宮司の免状にある第五号というのは何の意味でしょうか。

第五号と書かれていることが、５番目だということを始めて知りました。私の名前がレオだから、神名に獅子という漢字が入っていることも後で知りました。第五号の意味は、

機会があれば、日本に行った時に聞いてみます。

19）日蘭親善斎宮の名前の由来は何ですか。

最初は「オランダ山蔭神道斎宮」という名前を付けて活動していましたが、平成 18 年（2006）の日蘭修交 400 年祭の時に、「日蘭親善斎宮」に変更しました。山蔭神道の本宮は「貴嶺宮」で、それ以外の山蔭神道のお宮は「斎宮」という名前を付けています。「○○神社」とか、「伊勢神宮」とか、「出雲大社」とかより、斎宮（SAIGUU）という発音が、オランダ人にとっては簡単だと思います。（注. 山蔭神道は歴代皇室に仕えて信任が篤かった山蔭家や中山家を中心に受け継がれてきた宮中の古神道の流れをくむ為に斎宮を付けているものと思われる。）

20）特に宮司ならこれをしなくてはならないというものはありますか。

規則も義務もなにもありません。特にと言うのなら、心を常に浄めておくということです。

21）では反対に、これはしてはいけないというものはありますか。

妻帯をしてはいけないということもありません。山蔭神道の属する古神道は、それぞれの人の主体的な精神修養ということを大切にして、神社神道のようなお祭りの儀式や受験合格の祈願というような活動を主体にしているのではありません。つまり教理や哲学に従わなくてはいけないのではなく、自身の体験を通して神道の真髄に触れることを行法を通じて伝えています。私自身は独身ですが。

22）日蘭親善斎宮には、どのような神様をお祭りされていますか。

ここには、三柱の神様をお祭りしています。西に「ホラントクニタマノカミ」（寝ている神を起こすオランダの神）。東に「オオナムチノオオカミ」（大己貴大神・大国主大神）。中央に「アメノミナカヌシノオオカミ」（天之御中主大神・宇宙創造の神で古事記に最初に出てくる神）です。

23）日蘭親善斎宮には、鎮守の森とか磐座（いわくら）とかいったものはありますか。

山蔭基央管長に神が降りてくる「木」、つまり神籬（ひもろぎ）をオランダで探しなさいと言われました。それでオランダの国中を、歩き廻りました。でも神籬かどうかがわかなければならないので、日本に居る時に、色んな所へ連れて行ってもらって、その木が神籬かどうか感じられるかのチェックをしてもらいました。神の降りてくる木であれば、「ズズズ」と心に感じるものがあります。夏に 3 ヶ月、歩き廻って、そして見つけました。それで本当に神籬かどうかを確認してもらうために、日本から二人の山蔭神道の方に来てもらい、そこに行ってチェックしてもらいました。三人で「ズズズ」と感じることがで

写真 16. 神籬（ひもろぎ）

きたので写真を撮りました。セントラルホランドにある「ホーフフェイルウェー」という所にあります。この斎宮のあるアムステルダムではありません。その木は、「松の木」でした。最近、貴嶺宮の人たちをその場所に連れて行きました。するとその木が、エジプトの十字架のような樹形に変わっていました。その木は、ラッキーなことにオランダのモニュメントに指定された公園の中にあり、周りに何もない場所にあります。この壁に掛けられている、画家に描いてもらった絵の木が、その木（神籬）です（**写真 16**）。

24）日蘭親善斎宮では、どのような祝詞（のりと）をあげておられますか。

もちろんあげています。原型はなく、日本語で書いています。祝詞をつくることは、宮司の大きな仕事です。

25）日蘭親善斎宮の宮司特有の服装はあるのでしょうか。

宮司になった時に、装束を戴きました。しかし何十年と着ていると傷んできましたので、宮司就任 20 年を記念して、新しい装束を管長から戴きました。伊勢神宮の式年遷宮のように、20 年目に新しいものを戴いて感動しました。

26）日蘭親善斎宮では、結婚式やお葬式も執り行われていますか。

お葬式は執り行いませんが、亡くなられた方の霊を浄化するお祭りは行ないます。また、今回通訳をされている藤木さんの娘さんが、平成 22 年（2010）2 月に結婚式を神式で挙げられました。（頂いた資料によると、以下のように斎行された。）

結婚式次第

①斎官入場→②拝礼の儀→③修祓（しゅばつ）の儀→④万霊供養→⑤献饌（けんせん）の儀→⑥降神の儀→⑦大祓（おおはらえ）の儀→⑧結婚式祝詞→⑨玉串奉奠（たまぐしほうてん）→⑩誓いの言葉（日本語とオランダ語の両方で書かれている）→⑪三々まい（三々九度の杯）→⑫撤饌（てっせん）の儀→⑬昇神の儀→⑭拝礼の儀→⑮神酒拝戴→⑯斎官退下

誓いの言葉

今日の吉日に、私どもは父母の厚き慈愛に恵まれて、いまここオランダ・アムステルダムの地で結婚の式を挙げることができました。

今より後は、大神様の御恵によりまして、我々二人は相和し相敬する夫婦の道を守り、苦楽をともにして、穏やかな家庭を営み、祖先を崇めて、子孫繁栄、家運隆昌に努力致しますことを、ここにお誓い致します。

何とぞ、幾久しく御守り下さいますよう、お願い申しあげて、ここに謹んで誓詞を奉ります。

27）日蘭親善斎宮での神饌（しんせん）（神様のお食事）は、どのようなものですか。

毎月、神饌をあげる祭神のお祭りをしています。7 日は「ホラントクニタマノカミ」、13 日は「アメノミナカヌシノオオカミ」、24 日は「オオナムチノオオカミ」のお祭りをしています。お餅の代わりを丸いパンで、餡子（あんこ）の代わりをチョコレートで代用しています。その他、玉子・野菜・果物など現地で手に入るものを、神饌としてお供えしています。

28）日蘭親善斎宮でのお正月は、何か特別のことをされるのでしょうか。

お正月は、元旦から３日まで、アムステルダムのホテルオークラに特別に祭壇を設けて、初詣ができるようにしています。

６－３．神社神道との比較質問

29）参拝の方法を教えてください。

基本的には「一揖（軽いお辞儀）・一拝、二拍手、一礼」で祈念します。

30）祭壇のご神体はどのようなものですか。

ご神体に姿・形はありません。しかしその神霊の依り代としての鏡があります。

31）中央に掛けられている神号軸は何でしょうか。文字にはどのような意味があるのでしょうか（写真 17）。

書かれている文字は、山蔭神道の「言霊」です。霊符は、天地自然の数や形象を神が写し取ったものであり、宇宙の生成・変化流転の形相をつづめた象徴をあらわしており、一つ一つの符の形にそれぞれ深い意味があると言われています。書かれている言葉は、この斎宮の特別な言霊です。つまりこの霊符もまた神籬であり、神が降りてこられます。日本にある貴嶺宮は、神霊が降臨する特別な場所であり「磐座」に当ります。

写真 17. 言霊

32）神事に榊を使われますか。使われるのならどのようにして手に入れられるのですか。

日本の榊をオランダで手に入れることは不可能です。年中グリーンの木で、「ルスカス」という植物で代用しています。生け花教室やフラワーアレンジメントに使われているのに気付いて、オランダの温室のある花屋さんで購入しています。（注．ルスカスは、上の写真や写真１に写っている榊のように見える植物で、日本では「梛葉」と呼ばれている。地中海沿岸原産で卵形の葉のように見えるのは枝が変化した葉状枝で、ユリ科ナギイカダ属の常緑小低木で、ルスカス（Ruscus）は学名）

写真 18. 祭壇

33）お神札やお守りはありますか。

日本からこられた皆さんに、お守り

を一人ずつ差し上げます（一人ひとりの名前が記されたお守りを戴いた）（写真 19）。

34）拝礼の時に鈴を鳴らしたり、お賽銭をあげたりしますか。

鈴はありませんが、お賽銭箱はあります。

35）狛犬や鳥居はありますか。

ありません。

36）玉串奉奠はおこなっておられますか。

ルスカスを使って、行なっています。

37）おみくじはありますか。

38）絵馬や破魔矢はありますか。

39）お神輿はありますか。

すべて、ありません。

40）注連縄は用いておられますか。

自分で作って、用いています。

写真 19. 日蘭親善斎宮のお守り

41）神紋はありますか。あるのならどのようなものですか。

あります。先ほど差し上げたお守りに付いています。「抱き菊の葉に八重十六菊」です（写真 20）。

写真 20. 神紋

42）雅楽や巫女舞のようなものはありますか。

山蔭神道の方々が日本から来られた時に、やって戴いた事があります。オランダのスタッフだけでは、今のところできません。（注. 斎宮の壁にその時の写真が飾ってあった。）

43）信者の方々の家庭には、神棚があるのでしょうか。

山蔭神道は、個人の精神的修行を目的としているので、個人個人の家には神棚はありません。

44）今回のエクササイズを受けて、日本人が持っている宗教観とは違って、自分自身で気付かすというところに重点をおいておられると感じたのですが、このことはポウルさん自身のお考えなのでしょうか、山蔭神道の教えなのでしょうか。

私自身のやり方です。

6－4．その他

45）今までオランダで宮司をされて、日本の神道の普及に努力されてきて、どういうことが一番難しかったでしょうか。

神道の概念を説明するのが、一番難しかったことです。もともとオランダにはなかった概念ですから。最初は、気が触れたのではないかと思われましたし、パイオニアは常に変人扱いでした。しかし 30 年の間に、理解してくれる人が増えてきました。神道の中にある「知恵」を学ぶ、その必要性を感じ始めてくれました。私が 30 年前に神道に出会ったころに、非常に重要なものだと感じた神道の心を理解し始めてくれています。オランダ人にとって、そういった意味では、神道は分かり易いものです。簡単なことが難しく、難し

いことが却って簡単であるという真理。人にとっては、自分自身が一番の敵ではないでしょうか、いつも自分自身と戦っていなければなりません。自分の明るいところ、暗いところ、良いところ、悪いところを、常に学んで行かなければなりません。

46）宗教の目的の一つは、悩める者を救済するという事にあると思います。伝道の方がコンビニエント（簡便）な方法で、ポウルさんのやり方は難しいと思えるのですが。

オランダでは、イスラム教とキリスト教の間にコンプリケイト（複雑）な関係があります。神道の信仰に近づくことによって、この問題は解決できると思っています。また私のようなやり方が、本当の意味での解決になる道と信じています。

47）では今後ポウルさんは、どのような活動を続けて行こうとされているのでしょうか。

違う宗教の架け橋になりたいと思っています。

48）最初に手水で使用した浄めの水は何の水ですか。

水道水です。

長時間、本当に有り難う御座いました（**写真 21**）。

写真 21. 日蘭親善斎宮の玄関内付近
左端から小松・勝矢・ポウル・藤木・青木

7．ポウル宮司とワルデナール女史との談話昼食会

ポウル宮司への聞き取り調査に先立って、自己紹介を兼ねた昼食会が催された。すべてポウル宮司の手料理であった。温かいジンジャースープとパン 2 種（ゴマ・種子）とサラダ 3 種（サーモン・ツナ・モッチェレラチーズ）だった。

質問状の中で、ポウル宮司が勉強されたライデン大学の知人を紹介して欲しいと書いておいたので、ワルデナール氏（**写真 22**）に蘭学の専門家で、ライデン大学の中央図書館長であるハルメン・ベウケルス（Harmen Beukers）教授を紹介して頂けることになった。

写真 22. 日蘭親善協会副会長の
ワルデナール女史

また、ワルデナール氏自身、1800 年に来日した長崎の出島にあった長崎オランダ商館のウィレム・ワルデナール（Willem Wardenaar）商館長の末裔だということがわかった。

江戸幕府は寛永 16 年（1639）から安政 6 年（1859）までの 220 年間に、163 人の商館長（カピタンと言われた）を迎えた。一般に 3 年間の任期だったが 16 年間という長きにわたり一番長くカピタンであったヘンドリック・ドウフ（Hendrik Doeff）商館長がいるが、その前任者がワルデナール商館長である。フランス革命戦争の影響を受けた偽オラン

ダ船イライザ号事件やオランダ商館日記に記されている江戸参府や長崎奉行饗応の記述で見られる歴史上の人物である。

そのワルデナール商館長の３代後のカピタンと一緒に、文政６年(1823)オランダ商館の医官として来日したのが、有名なドイツ人シーボルトである。シーボルトは長崎鳴滝に塾を開いて、医学の指導に当ると共に、日本の動植物や民俗などを研究し、多くの資料を収集して、オランダに持ち帰った。持ち帰った膨大な資料を基に、三部作である大著「日本（ＮＩＰＰＯＮ)」「日本動物誌」「日本植物誌」を著し、日本国及び日本人を世界に紹介した点で大きく貢献した（**写真 23**)。

写真 23. ライデン大学附属植物園内のシーボルト庭園にある像と持ち帰ったアジサイ

シーボルトはオランダに帰国後、天正３年（1575）創立のオランダ最古の大学であるライデン大学で教鞭を取った。その関係でシーボルトが日本から持ち帰った多くの資料が、ライデン市にあるライデン大学中央図書館（**写真 24**）と国立民俗学博物館、およびシーボルトが 16 年間過ごしたライデンにある旧宅を資料館にしたシーボルトハウスに収蔵されている。

写真 24. ライデン大学中央図書館

このライデン大学中央図書館の収蔵品で、秋里籬島（あきざとりとう）が文章を書いた安永９年（1780）に出た初版本である「都名所圖會」を見せて頂いた。本文中には、「加茂あふひ祭」（**写真 26**）つまり現在の「賀茂祭葵祭」の記載があり、また上賀茂神社で斎行されている競馬の記載もあった。興味深いのは表紙裏に、シーボルトの自筆のカタカナ表記があったことだ（**写真 25**)。

写真 25. シーボルトが持ち帰った都名所圖會と自筆のカタカナ文字

もう一つは、水戸赤水先生記と記されている長久保赤水の「長崎紀行」を見せて頂いた。この本の表題の横には、「長崎行役日記」とラベルが貼ってあった。赤水は伊能忠敬の地図より、42 年も前に「日本輿地路程全図」を安永３年（1774）に作成し、天明５年(1785)には世界地図である「地球万国山海輿地全図説」を出版している地理学者で、

明暦３年（1657）に水戸光圀が編纂を始めた「大日本史」の地理志にも、天明６年（1786）には執筆を行なっている。赤水の地図は、明治元年（1868）までの約100年間に、８版の改訂版を出し、赤水本として一般に広く使用され、当時のヨーロッパで日本を知る資料として活用され、シーボルトコレクションの一つになったそうだ。

なかなかシーボルト研究者や蘭学研究者でないかぎり、見せて頂けないような貴重な資料を、今回の縁をもって見せて頂く機会ができたことを、本当に幸運だったと言える。

またシーボルトが日本から持ち帰った多くの生きた植物のうち、アジサイ・カエデ・イチョウなど150年経った現在でも15種類の植物が、天正１５年（1587）に創設され西ヨーロッパ最古の歴史があるライデン大学附属植物園で見られることは、素晴らしいことだった。

写真26. 四月中酉日　加茂あふひ祭と
五月朔日　加茂競馬足揃
・五日　同所競馬の記載ページ

さらに日蘭修好400年を記念して資料館として整備された「シーボルトハウス」では、シーボルトコレクションのうち、日本地図や民俗品や動植物など120点が常時展示されている。特にニホンオオカミを連想させる、日本から連れ帰ったといわれる愛犬の剥製標本は、心に残る。

８．おわりに

今回のオランダ王国における調査で、日本の神道の心は世界に通じるということを実感した。特に自然崇拝的な考え方の基になっている、大自然の中に秘められている神秘性、宇宙の法則性への洞察、自然に対する畏敬と感謝など、それらが自らの精神的基盤を成し、自分自身の主体的な精神修養に努めることにより、感じられるその豊かな智慧に触れるという神道のこころを、ポウル宮司との会話、およびポウル宮司が独自に構成した神道エクササイズを受けることによって体得できた。神道エクササイズは、神社神道には余り残されていない、古神道独特の「タマフリ」と「タマシズメ」による心と肉体の統一により魂の浄化を成すことによって、新しい力に満ちた生命力を得るトレーニングであった。

ポウル宮司の言われるように、一般的な宗教に存在する教義・戒律・崇拝対象などといったものが、神道には一切ない。感じ方、考え方、世界の見方などすべてが、一人ひとり違う。その違うことを許しあい大切にし、定型を持たず、異なる観察眼を養い、それぞれがそれぞれに体験し、感じ取り自分自身を見つめなおすことが重要だと言う、神道のこころを教えてくれている。ポウル宮司は神道における和を理解することの大切さも述べられた。ポウル宮司は言葉では一切教えていないとのことであったが、神道エクササイズに参加された方々がこれらのことをよく理解しておられることにも強い印象を受けた。

キリスト教が支配していると言っても過言ではないヨーロッパにおいて、「違う宗教の架

け橋になりたい」、とポウル宮司は言われた。また「日本とオランダの親善の架け橋になりたい」とも強調された。ポウル宮司が神道のこころを通じて行なおうとしていることは、バイブルがない神道のいわゆる弱点を、自分自身による鍛錬によって、道標がなくても自分をより良い方向へ変革でき、新しい自分を生み出せるということに気付かせることによって、その弱点を長所に変えることである。人間と自然の生命を尊重し、同時に調和と釣り合いを保つ精神を育む、「世界に通じる日本の神道のこころ」の真髄をオランダで学んだ。

ポウル宮司の日蘭親善斎宮は、本年（平成23年）に30周年を迎えられた。ますますの発展をお祈りいたしたい。

最後に、この取材を快くお引き受けいただいた日蘭親善斎宮のポウル宮司、日蘭親善協会のワルデナール女史、ライデン大学中央図書館長ベウケルス教授、そしてオランダ語通訳として大いに活躍して頂いた藤木きよ氏には、本当にあり難く感謝致します。

参考文献

1）ポウル・ド・レオ「我は鏡なり」、開明堂、昭和55年（1980）
2）山蔭基央「神道の神秘」、春秋社、平成12年（2000）
3）中村雅夫「古神道の本」、学習研究社、平成6年（1994）
4）小林美元「古神道入門」、評言社、平成10年（1998）
5）大野靖志「言霊はこうして実現する」、文芸社、平成22年（2010）
6）大宮司朗「古神道行法秘伝」、ビイング・ネット・プレス、平成13年（2001）
7）野村敏晴「歴史読本臨時増刊9月よみがえる神道の謎」、新人物往来社、平成1年(1989)
8）ライデン大学付属植物園「Hortus botanicus」、ライデン大学、平成13年（2001）
9）日本浮世絵協会「シーボルトコレクション浮世絵展」、大塚工藝社、昭和51年（1976）
10）朝日新聞社など「シーボルトと日本」、朝日新聞社、昭和63年（1988）
11）京都文化博物館など「京の葵祭展」、京都文化博物館、平成15年（2003）
12）「神道のこころ　欧州に響け」、日本経済新聞、平成17年（2005）11月16日
13）「オランダ人神主25年 / 欧州で“日本の心”講義」、東奥日報、平成18年（2006）2月18日
14）ﾌﾞﾙｰｶﾞｲﾄﾞ海外版出版部「わがまま歩きオランダベルギー」、実業乃日本社、平成16年（2004）

[付記1]

山蔭神道の貴嶺宮（きれいぐう）は、名古屋から東海道本線に乗り換えて「幸田」で下車する。そこからタクシーで10分足らず（千円ちょっと）の田んぼと農家の集落を離れた山裾にある。タクシーの運転手によると、地元では参拝する人は少ないが、他所から参拝に来る人が結構あるとのことで、ある有名な映画俳優も家族で祈願に来たことがあるとのことであった。

境内はちりひとつなくきれいに掃き清められていた。夏の青空のもとまったく人気がな

く静まり返っていた。1 時間余りの間に、社務所から神職の人が用事で出てきたのが 2 度、20 代後半と思える青年が 1 人参拝にきたのみであった。ただし、都会の大きな神社でなければ、このような状況はとくに珍しいことではない（**写真 27. 28**）。

写真 27. 貴嶺宮入口

石碑には「貴嶺宮由緒」として以下のように書かれている。

御祭神　造化三神（ぞうかさんじん）　天照大御神（あまてらすおおみかみ）
本殿　建速須佐之男大神（たけはやすさのおのおおかみ）　大己貴大神（おおなむちのおおかみ）　少彦名大神（すくなひこなのおおかみ）

当社は、唯一宗源神道（ゆいいつそうげん）を継承し天照大御神と大己貴大神を併祀する崇神朝以前の秘儀を伝えており古来、公卿の殿内に祀られていた社であります。凡そ日本国の中心に当たる当地に、社殿造営の砌、神秘な現象が続発し、多くの人々は御神霊の存在を確認しました。造化三神と天照大御神は、人類を大同に導く「いつくしみ」の思想を皇孫に伝え、大己貴大神は全人類の祖霊を光明に導き全ての人々に幸福をもたらす神として、崇められてきました。

なお当社の社号は中山大納言家（なかやまだいなごんけ）の御殿号「貴嶺殿」によるもので、歴代、皇室の弥栄と日本国の隆昌、全世界の和平を祈り続けて参りました。ご参詣の皆様には必ず福寿の霊験をお受けになることができます。

宮司敬白

平成三年秋吉辰

バスの便はなく、道の両側には信者の赤い幟が続いている。木々に囲まれた坂道を 15 分ほど降っていくと町が広々と見渡せるようになり、左手に大きな不動ヶ池（農業用の貯水池）、およびそれを利用した休憩所と町営グランドがある。さらに歩いて行くとようやく田んぼと農家が点在し、歩くほどにだんだんと町の風景になっていく。合計 1 時間足らずで JR 幸田の駅に着いた。

写真 28. 貴嶺宮本殿

[付記 2]

小松は、オランダの公共テレビ局 VPROTV（日本のＮＨＫに相当）において、昨年平成 22 年（2010）５月１５日にオランダ国内で放映された蹴鞠（けまり）に関する番組に出演した。昨年開催された 2010FIFA ワールドカップサッカー南アフリカ大会において、日本とオラ

ンダは同じグループEに所属し、予選リーグで決勝リーグ出場をかけて戦うことになった。（結果はそれぞれ2位と1位で予選を通過し、オランダは見事準優勝を遂げた）そのためオランダのテレビ局が、サッカーの原型のひとつとされている日本の蹴鞠の取材を行い、小松は所属している蹴鞠保存会の指示を受け、出演した。日本では、現在（平成23年(2011)2月9日現在)でも、ネットのMetropolisTVで日本語版を観ることが出来る。MetropolisTVは文化やライフスタイルをテーマに、世界50都市以上のビデオジャーナリストが参加し、各地の話題を提供するオランダのテレビ番組である。毎週30分番組としてオランダの公共テレビ局VPROTVが全国ネットで放送し、同じテーマで世界を一周し、国際的観点から話題を掘り下げ文化の違いを超えて共通点を炙り出している。世界中にオランダ語と英語でウェブサイトを通して視聴出来るようになっている。

http://www.metropolistv.nl/en/countries/japan

で見られる。その中の「Worshipping the God Soccer in Japan」という番組で視聴が可能である。サッカー熱の高いオランダでは、日本の蹴鞠に興味を持たれた方が多くおられたと聞いている。

（勝矢淳雄：京都産業大学、青木豊明：びわこ成蹊スポーツ大学、小松　明：京都西山高等学校・賀茂御祖神社（下鴨神社）総代）

編集後記

遅くなりました。平成22年度は新たな活動を始めましたので手が回りきれませんでした。上賀茂地域での活動から下鴨地域に活動を広げ、さらに全国から世界に活動範囲を広げました。上賀茂地域では、上賀茂小学校の総合学習の時間にジュニア上賀茂検定が実施されました。本研究会の全面的な支援なしには絶対にできなかった活動です。下鴨地域では、御所音頭・紅葉節が復活しました。これも本研究会の強い支援なしには到底困難だったことです。本研究会は賀茂地域に着実に貢献しております。

全日本賀茂地域連携推進ネットワーク（略称：賀茂ネット）の構築のために全国を回りました。まだ、先の見えない手探り状況ですが、この活動については京都産業大学が高く評価し強い支援をしてくれています。どこまで出来るか分かりませんが、夢と希望をもって実現に向かって平成23年度も継続して活動を進めます。

オランダに日本の神社があることが分かり、早速に訪問しました。日蘭親善斎宮のPaul宮司は、立派な尊敬できる方でした。そのひたむきな姿勢は学ぶべきことがたくさんありました。活動に希望を感じました。今後も、海外の神社の現状を紹介できればと考えています。

最後になりましたが、平成23年3月11日に東日本大震災が起りました。死者1万人を超える大惨事になりました。亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表します。そして、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。　(A.K)

ISSN 1349 - 1911

賀茂文化　第8号

平成23年（2011）4月1日　発行

発　行　賀茂文化研究会　会　長　梅辻　諄

事務局　〒603 - 8555　京都市北区上賀茂本山　36
京都産業大学　理学部　勝矢研究室内
事務局長　勝矢淳雄
TEL　075 - 705 - 1637（直通）　FAX　075 - 705 - 1640（共用）
郵便振替口座　00980 - 2 - 130952（賀茂文化研究会）

印刷所　〒606 - 8540　京都市左京区下鴨高木町　38 - 2
株式会社　北斗プリント社
TEL　075 - 791 - 6125　FAX　075 - 791 - 7290

頒価　3,000円

本誌の内容の一部あるいは全部の無断複写は、著作権法上の例外を除き、本研究会の権利の侵害となり禁じられております。複写の場合は、あらかじめ本研究会に許諾を求めてください。